HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	博士人材支援における人社系URAの役割と可能性 ： フェローシップ申請の例から
Author(s)	澤田, 真理子; 森岡, 和子; 飯塚, 理恵 他
Description	RA協議会第10回年次大会 ： まるっとダイバーシティ～多様性の知から異なるバックグラウンドの力をけん引するURAとは～. 2024年10月16日(水)-10月17日(木). 主催：リサーチ・アドミニストレーション協議会. 沖縄科学技術大学院大学. 沖縄
Issue Date	2024-10-16
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/93932
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/
Type	conference poster
File Information	P112_RA10th2024A0.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

博士人材支援における人社系URAの役割と可能性-フェローシップ申請の例から- P112

○澤田 真理子, 森岡 和子, 飯塚 理恵, 加藤 美樹　北海道大学大学院文学研究院　研究推進室

【概要】
北海道大学文学研究院では部局URAが、博士人材のアカデミアを含めた社会の多様な場での活躍促進に向けた様々な支援を積極的に行っている。大学院生やポスドクは研究職以外の社会人経験者や留学生が多いのことが大きな特徴で、URAが支援する対象者のバックグラウンドはバラエティに富んでいる。そのため、支援の場では個人個人に適した既製品ではない支援が求められる。また、大学院生向けの支援には教員やポスドクに対する支援と異なり「研究」と「教育」が重なる部分も多い。その一つとして、2021年度に開始した博士後期課程大学院生を対象とした学内フェローシップ申請支援では、対象学生への情報提供に始まり研究の棚卸や申請書チェックなどの申請支援だけではなく、大学院教育プログラムやキャリア形成支援も行っている。ここでは、文学研究院研究推進室による博士人材支援の具体的な取り組みの紹介と学内フェローシップ申請支援の事例を報告すると共に、特に人文社会学系分野での博士人材支援におけるURAの役割とその可能性について提案したい。

▼ ▼ ▼北海道大学大学院文学研究院の博士人材支援▼ ▼ ▼

学振申請書の書き方セミナー

対象：日本学術振興会特別研究員に申請予定の
　　大学院生・ポスドク（学部生・研究生も可）
分野：**人文社会科学系の研究に特化**
開催：**毎年部局独自**に開催（2014年から計18回）
内容：具体的な申請書の書き方やコツ、研究の進め方、
　　研究者としての心がまえ、キャリアパスなど
　　幅広い領域について経験談やアドバイス。

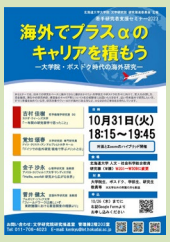
▼話題提供者＆相談員▼
採用された経験のある教員や大学院生・ポスドク

⇑ 特別研究員に採用されたセミナー受講者が、次の話題提供者となり、新しく申請予定の学生やポスドクにアドバイスをする好循環

若手研究者支援企画セミナー

対象：大学院生・ポスドク（学部生・研究生も可）
分野：人文社会科学系の研究+α
開催：毎年部局独自に開催（2013年から計11回）
内容：海外研究、学術図書出版、キャリアパスなどの情報提供
　・博論や学術書出版の**基礎知識やハウツー**
　・海外での研究の**はじめの一歩**を後押し
　・アカポス、民間企業、官公庁など多様化したキャリアパス

▼話題提供者▼
教員、大学院生・ポスドク、修了生、北大出版会



他部局と連携

人社系で学位取得後**アカデミア以外**の**産業界**に就職したOB/OGから企業ならではの業務やその魅力を発信

情報配信

対象：学生・ポスドク
分野：人文社会学系+α
方法：メーリングリスト
頻度：毎月不定期配信
内容：セミナー・イベント
　　助成金・奨学金
　　教員・職員公募など

スキル登録ASB

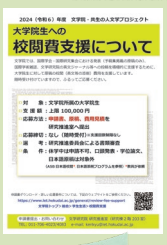
アカデミック・スキル・バスケット（若手研究者技能登録システム）

大学院生・専門研究員が**スキル登録**。大学から業務発注、**雇用や謝金支給**あり。**スキル活用**&UP

研究支援 P058

旅費

学会参加費

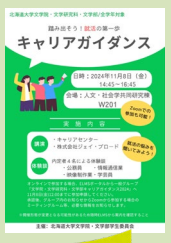


校閲費

日本語添削

スキル支援/キャリア支援

研究展示



キャリア

教養深化

研究成果発表

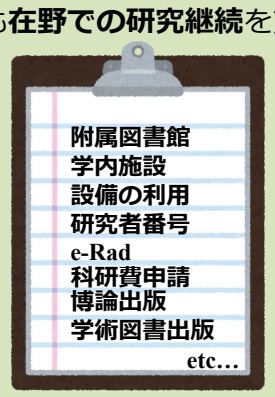
P098

専門研究員制度

学位取得後の研究継続を支援
アカポスを含め**キャリアパス**に寄与するサポート

共同研究員制度

アカポス以外（教諭、塾講師、学芸員、古物商など）に就職後も**在野での研究継続**を支援



学内フェローシップ申請支援事例

北海道大学の学内フェローシップとは？
JSTが実施する「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に基づき、「未来社会の開拓者」を育成することを目的として博士後期課程の研究・生活を支援する制度。

支給対象：北海道大学大学院博士後期課程・全部局
　　約700名（2023年度までは467名）
申請資格：北海道大学大学院博士後期課程在学生または
　　進学予定者（他大学の修士課程在学者も可）
申請時期：これまでに**５回**募集
第１回 2021年10月15日2021年10月開始
第２回 2022年　2月10日2022年4月開始
第３回 2022年　7月　1日2022年10月/2023年4月開始
第４回 2022年11月22日2023年&2024年4月開始
第５回 2024年　6月28日2024年&2025年4月開始
支援期間：募集開始前（説明会や学内通知で募集予告段階から情報収集・提供）**から**申請期限までの1~2ヶ月
支援人数：延べ77人
1回目19名　2回目10名　3回目 7名　4回目20名　5回目21名

具体的なフェローシップ支援内容

情報提供
博士人材支援の情報配信で活用しているメーリングリストを利用
公式SNSや大学院生支援セミナーで募集内容を周知
学生からの個別の質問に回答（電話・メール・対面）
フェローシップ関連教育プログラムやキャリア形成について案内
➡これまで**博士人材支援で培ったスキル**や情報を**活かせる**

申請書作成支援
研究の棚卸、**申請書で聞かれている内容**（研究背景、研究目的、研究方法、挑戦的・融合的研究としての意義、研究遂行能力の自己分析、研究業績、自身の専門的な研究内容にDXを活かした取組の実現可能性、研究成果の社会展開や社会実装に向けたアイディア、志望動機やキャリアパス構想等の自己評価）が**申請書の該当部分に書かれているか**具体的にアドバイス、形式チェック。
➡科研費など**教員を対象とした申請支援**で得た**ノウハウ活躍**

支援の特徴
１．**申請期間の短さ＆申請初心者が多い**
　初めて申請書を書く、大学院進学間もない学生（修士1年）が募集開始から申請期限までの短い期間で申請書を作成する必要
２．**人文社会学系分野**
　・研究成果を社会展開や社会実装、DXなどに結びつけにくい
　・社会人や留学生を含む多様なバックグラウンドを持つ学生
　・独創的で多彩な研究テーマ１つ１つに個別対応する必要
➡幅広い分野の個性的な研究を知るURAは研究者と異なる視点

- **一人一人に適したテーラーメイド支援**
- **幅広い分野を網羅的に研究者とは異なる視点で支援**
- **蓄積したノウハウを応用できるURAのスキルを活かす**

➡ **研究室の教員や先輩とは別の長期的支援**